

平成28年8月16日

## 文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つなぐ・キカイ」の開催

文化庁では、札幌市においてメディアアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ等のメディア芸術作品を総合的に展示・上映する展覧会「ココロ・つなぐ・キカイ」を開催いたしますので、お知らせいたします。

### 1. 概要

文化庁では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバル「文化庁メディア芸術祭」を実施しています。

この受賞作品を中心に、優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、平成14年度より国内の様々な都市において展覧会を開催しています。このたび、文化庁メディア芸術祭札幌展として展覧会「ココロ・つなぐ・キカイ」を別紙のとおり開催いたします。

### 2. 会期等

会期：平成28年9月16日（金）～9月30日（金）10:00～18:00

会場：サッポロファクトリー アトリウム／サッポロファクトリー ルーム

（札幌市中央区北2条東4）ほか

入場料：無料

### 3. 主催等

主催：文化庁

後援：札幌市、札幌大谷大学、札幌大谷大学短期大学部

特別協力：クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

協力：サッポロファクトリー、札幌国際芸術祭実行委員会

運営：文化庁メディア芸術祭札幌展事務局（電通北海道内）

### 4. 問合せ先

文化庁メディア芸術祭札幌展事務局（電通北海道内） 担当：松井

電話：011-214-5173 Mail：takahiko.matsui@dhj.dentsu.co.jp

#### <担当>文化庁文化部芸術文化課

支援推進室メディア芸術交流係

支援推進室長 柏田 昭生（内線 2858）

支援推進室長補佐 鈴木 康彦（内線 2062）

メディア芸術交流係長 中臺 正明（内線 2895）

電話：03-5253-4111（代表）

## 文化庁メディア芸術祭札幌展 「ココロ・つなぐ・キカイ」 開催のご案内

文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つなぐ・キカイ」では、9月16日(金)～9月30日(金)までの15日間にわたり、サッポロファクトリーを中心に、国内外の優秀な作品を紹介します。『ゲームキョウカイ』や『KAGE-table』などの体験型インスタレーションをはじめ、『たまこラブストーリー』などの映画上映やマンガ『機械仕掛けの愛』などの展示、『アオイホノオ』をはじめとした北海道ゆかりの作品の紹介など、メディア芸術作品の数々をぜひお楽しみください。

### 開催概要

- 【タイトル】 文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つなぐ・キカイ」
- 【会 期】 2016年9月16日(金)～9月30日(金)
- 【開催時間】 10:00～18:00(会期中無休)
- 【会 場】 サッポロファクトリー アトリウム／サッポロファクトリー ルーム ほか  
(札幌市中央区 北2条東4丁目)
- 【入 場 料】 無料
- 【主 催】 文化庁
- 【後 援】 札幌市、札幌大谷大学、札幌大谷大学短期大学部
- 【特別協力】 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- 【協 力】 サッポロファクトリー  
札幌国際芸術祭実行委員会
- 【運 営】 文化庁メディア芸術祭札幌展事務局(電通北海道内(担当:松井))  
Tel/011-214-5173 E-mail/takahiko.matsui@dhj.dentsu.co.jp

### 文化庁メディア芸術祭とは

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。1997(平成9)年度より毎年優秀な作品を選出し、受賞作品展を開催しています。そして、2002(平成14)年度より国内の様々な都市にて、受賞作による展覧会を実施し、現在における多様な表現を紹介しています。2016年9月に開催する札幌展では、「ココロ・つなぐ・キカイ」をテーマに、過去の受賞作品を中心に独自に企画し、広がりつづけるメディア芸術を紹介します。

## 文化庁メディア芸術祭札幌展「ココロ・つなぐ・キカイ」の開催

---

「メディア芸術」は、旧来の文学や音楽、美術とは別に、「映画、マンガ、アニメーション及びコンピュータその他電子機器等を利用した芸術」として、文化芸術振興基本法に定義されました。それら新しいメディアの上で生まれる芸術表現を顕彰し、広く展覧するために1997年から始まったのが、文化庁メディア芸術祭です。

そして、今年はメディア芸術祭のスタートから記念すべき20年目を迎えます。メディアはますます環境化し、私たちは常にメディアへの接続を強いられるようになりました。そうしたメディアの中に我々は何を眺め、何を見出してきたのでしょうか。

文化庁メディア芸術祭札幌展では、メディア芸術祭の20年の歴史の中から、心の所在を問う作品、アニメを感じる作品など、「ココロ・つなぐ・キカイ」をテーマに、多彩な作品を紹介いたします。

### メイン会場はサッポロファクトリー アトリウム／サッポロファクトリー ルーム

---

サッポロファクトリーアトリウムとサッポロファクトリールームの2会場をメイン会場として、昨年度までの受賞作の中からテーマに沿った作品をセレクトし紹介します。ここでは、文化庁メディア芸術祭の受賞作の中から、札幌展のテーマ「ココロ・つなぐ・キカイ」として、コミュニケーションを仲立ちする役割を持った作品の体験的な展示や、本来、ココロを持つことの無い無生物にアニメを感じさせるような映像作品、そして写し鏡として私たちの心とは何かを見つめさせてくれる作品を紹介します。そして、マンガから映像、アニメーション、ゲームまで多彩な表現をご覧ください。

## テーマ1 ココロ・つなぐ・キカイ

コミュニケーションを仲立ちするという意味で、メディアは人と人、都市や自然など様々な境界を接続し、新たな認識や意識を与えてきました。多様な広がりを見せるメディアの進化と共に、そこに疑いの目を向け、警鐘を鳴らすような作品や、主要なメディアの変遷によって失われていく関係性を繋ぎとめようと新たな視点を提案する試みなど、メディアの特性を確かめるかのように数多くの表現が生まれてきました。ここでは隠れていた境界をあらわにし、新たな関係を築くキカイを私たちに与えてくれるような作品を取り上げ紹介いたします。

### 〔見どころ〕

#### ゲームキョウカイ / 藤木 淳

（平成24年度メディア芸術クリエイター育成支援事業 採択企画）



『ゲームキョウカイ』藤木 淳

『ゲームキョウカイ』は、横並びにつなげられた往年の家庭用ゲーム機の中を横スクロールしながら、およそ30年のTVゲーム史をプレイできる作品です。各時代のゲーム機の特徴をも再現した典型的なゲームをクリアすると、隣のゲーム機へキャラクターは移ります。次々に新しくゲームが始まっていくその様は、新たなミッションが未来永劫に新しいゲーム機の登場と共に繰り広げられていくかのようです。様々なゲームの境界をシームレスに繋ぐ試みであると同時に、感覚と物質の境界、技術革新や社会認識など、次々に訪れる様々な境界を、私たちはどのようにプレイしながら乗り越えていくことができるのかを問っているかのようです。

#### 初音ミク / クリプトン・フューチャー・メディア株式会社



『初音ミク』は、歌声合成システムを用いたソフトウェア音源で、規約の範囲内であればキャラクターの自由な利用を認めています。そのため、ソフトウェア利用だけではなく、キャラクターを用いた創作活動をも促進し、ネットを中心に社会現象となりました。

本展示では、札幌の企業によって生まれた『初音ミク』がメディアを横断しながら、これまで多彩な枝葉として成長してきた様子を紹介します。

illustration by KEI © Crypton Future Media, INC. [www.piapro.net](http://www.piapro.net) **piapro**

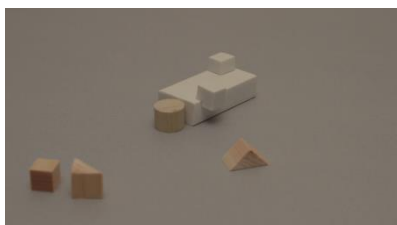
## テーマ2 ココロ・ゆるする・メディア

メディアが身の回りの何らかの事物を代行している限り、それは別様に記した存在に他なりません。そうした自明の意識を差し置いて、私たちはその対象に注意を向け、他のものが目に入らなくなるほど、また現実と見分けがつかなくなるほど、物語や架空の存在と同化してしまうことがあります。ここでは物語やキャラクターの息遣いに呼応して、私たちの心を揺さぶるような作品を取り上げ、紹介いたします。

### 〔見どころ〕

#### 新しい生物 / ユーフラテス

(第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)



©NHK

消しゴムやブラシなど、身の回りにある何気ないモノたちが、コンコンと蠢き出し、あたかも生きているかのようにアニメーションしていく「新しい生物」シリーズは、まさにアニメーションの語源であるアニメを感じさせる映像作品です。動いているものを見ると、そこに意志を感じてしまうのはなぜでしょうか。誰もが、身の回りのモノを何かの生き物に例え動かした経験があるように、身の回りにある無生物のモノたちを、どのように動かしたら生き生きと見えるのか、自身でもアニメーション作品の制作に挑戦したくなるようなシンプルかつ想像力をかきたてる映像作品です。

#### WHILE THE CROW WEEPS ―カラスの涙― / 鋤柄 真希子 / 松村 康平

(第17回アニメーション部門新人賞)



©2013 sukimaki animation. All Rights Reserved.

動物だけが持つことを許された「生きる」という本源的な意志や本能を主題とした作品です。彼らのよどみのない純粋な生に対する意志は、言葉を持たないこととつまり言葉(＝思想)如くに生来するバース(情念)に他なりません。本作の「子ガラス」と「母」の関係は、生と死という矛盾する二つの概念が、互いに補完し合い、両者が一体となってひとつの全体性をなす“融即”の関係にあることを物語っています。自分のために犠牲となった亡き母を捕食し、命をつないでいく「子ガラス」を描くことを通じて、我々人間にとっては禁忌とされるカニバリズムをやすやすと超え、己以外の他者に生命が融けてゆく象徴的なイメージを表現しています。

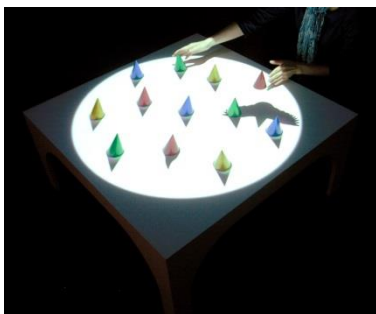
## テーマ3 ココロ・うつす・メディア

鏡を覗くように、メディアは自己や対象への理解を助ける手だてとして有効な手段です。鏡に映る左右反転した像のように、実態との差異を際立たせ、新たな視点や尺度を私たちに与えてくれます。ココロに似た機能を持ったキカイ達は、むしろ私たちが描く理想の人間像を投影していたり、歪んでしまった私たちの輪郭をあらわにするなど、私たちのココロをうつしだすような表現に焦点を当て、作品を紹介いたします。

### 〔見どころ〕

#### KAGE-table / plaplaX(プラプラックス)

(第1回デジタルアート部門大賞)

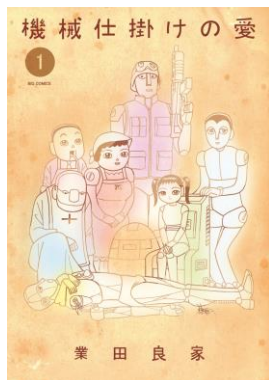


©plaplaX

円錐形のオブジェに触れると、その影は、動き出したり、形を変えたり、ときにはカラフルに色づいたりします。コンピュータによって作り出された映像の影と、鑑賞者自身の本物の影が同じ平面上に投影されます。実在を証す指標でもあった影は映像の原点とも考えられ、虚像の影と本物の影とが不確かに交差することによって、自分という存在を再認識します。

#### 機械仕掛けの愛 / 業田 良家

(第19回マンガ部門優秀賞)



©Goda Yoshiie / SHOGAKUKAN

“心”に似た機能を持つロボットたちが、近未来の地球各地で織りなすさまざまな寓話からなるオムニバス集。人間のために働くロボットたちを軸に、物語は展開されます。

街にたたずむ自販機ロボ、本を愛する刑事ロボなど、プログラムされた機能を果たしているだけの彼らは、その純粋な“機能”をもって、人間たちに語りかけます。これまで「人生に意味はあるか」「人間の想いは永遠であるか」などのテーマを描いてきた作者が、ロボットの営みを通して「人間とは何か」「“心”とは何か」を表現した作品です。



## マンガライブラリー

文化庁メディア芸術祭歴代の受賞作品の中から『ココロ・つなぐ・キカイ』のテーマをもとに選んだ作品や北海道ゆかりのマンガ家の作品を選び紹介します。観客がそれぞれのペースでゆっくり読書を楽しめるマンガライブラリーです。

### アオイホノオ / 島本和彦 (第18回マンガ部門優秀賞)



©Kazuhiko  
Shimamoto/SHOGAKUKAN

本作は、いわゆる「マンガ家マンガ」にジャンル分けされる作品で、作者自身とされる芸術系大学に通う学生が、マンガ家を目指して1980年代初頭の芸術系大学で悪戦苦闘する物語である。実録系の「マンガ家マンガ」には、読者もよく知るマンガ家やアニメーターが不可欠だ。本作品もその例に漏れない。やがて『新世紀エヴァンゲリオン』で一世を風靡する庵野秀明や、オタクの教祖とも言える岡田斗司夫（おかだとしお）などが、実名のまま笑えるバイプレイヤーとして登場する。当時の人気マンガに対する主人公の批評も爆笑ものだ。各巻の冒頭にフィクションであることが大書されているが、読者は誰も信じていない。多くの著名人を輩出した芸術系大学は、差し詰め「1980年代のトキワ荘」といったところか。つまり本作品は「平成の『まんが道』」なのだ。連載開始から7年になるが、深夜に放映されたテレビドラマも話題になって、今、まさに旬のマンガとなった。

(第18回マンガ部門贈賞理由 すがやみつる)

作品	作者	文化庁メディア芸術祭マンガ部門受賞歴
王道の狗	安彦 良和	第4回優秀賞 ※北海道出身
ブラックジャックによろしく	佐藤 秀峰	第6回優秀賞 ※北海道出身
失踪日記	吾妻 ひでお	第9回大賞 ※北海道出身
PLUTO	手塚 治虫／浦沢 直樹	第9回優秀賞
宗像教授異考録	星野 之宣	第12回優秀賞 ※北海道出身
イムリ	三宅 乱丈	第13回優秀賞 ※北海道出身
百姓貴族	荒川 弘	第16回審査委員会推薦作品 ※北海道出身
Sunny	松本 大洋	第16回審査委員会推薦作品
昭和元禄落語心中	雲田 はるこ	第17回優秀賞
五色の舟	近藤ようこ／ 原作 津原 泰水	第18回大賞
アオイホノオ	島本 和彦	第18回優秀賞 ※北海道出身
かくかくしかじか	東村 アキコ	第19回大賞
機械仕掛けの愛	業田 良家	第19回優秀賞
ゴールデンカムイ	野田 サトル	※北海道出身

## 長編アニメーション

文化庁メディア芸術祭歴代の受賞作品の中から「ココロ・つなぐ・キカイ」のテーマをもとに選んだ作品を紹介します。

### たまこラブストーリー / 山田 尚子 (第18回アニメーション部門新人賞)



©KyotoAnimation/UsagiYama  
Shopping Street

高校3年生に進級した主人公・北白川たまこの頭の中は、大好きなお餅のことばかり。学校の帰り道、たまこは仲の良い友人たちと進路の話をしていた。不安を抱えながらも将来のことを考えている友人たちに対して、彼女は何気なく、将来は家業のお餅屋を継ぐと答える。周りが変わっていく予感を少しずつ感じ始めた頃、たまこは幼なじみの大路（おおじ）もち蔵（ぞう）から、東京の大学へ行くことを告げられる。幼い頃からもち蔵とずっと一緒に過ごしてきたたまこにとって、それは思いもよらないことだった。そしてもち蔵から「俺、たまこが好きだ」と告白を受ける。突如訪れた“恋”というきっかけが、一人の少女を大人の階段へと導く。テレビアニメーション『たまこまーけっと』の続編となる青春物語です。

作品	作者	文化庁メディア芸術祭アニメーション部門受賞歴
ゴールデンタイム	稲葉 卓也	第17回優秀賞
たまこラブストーリー	山田 尚子	第18回新人賞
ジョバンニの島	西久保 瑞穂	第18回優秀賞

#### <1回目>

【会場】 演劇専用小劇場 BLOCH(札幌市中央区 北3条東5丁目5岩佐ビル1F)

【日時】 9月19日(月・祝)

#### <2回目>

【会場】 札幌大谷大学 記念ホール(札幌市東区北16条東9丁目1番1号)

【日時】 9月25日(日)

#### <3回目>

【会場】 ユナイテッド・シネマ札幌(札幌市中央区北1条東4丁目サッポロファクトリー1条館2F)【日時】

9月30日(金)

※上映時間・リスト調整中



## イベント

### ①SPECIAL TALK「メディア芸術：あの頃とこれから」(仮)

『ゲームキョウカイ』の作者である藤木 淳氏，第16～18回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員を務めたアーティスト・久保田 晃弘氏をゲストに迎え，札幌展の監修を務める小町谷 圭氏の進行により「メディア芸術とは何か」をテーマに語り合います。

- 【出演】 藤木 淳（東京藝術大学 JST 研究員）  
久保田 晃弘（アーティスト／多摩美術大学教授）
- 【進行】 小町谷 圭（メディア・アーティスト／札幌大谷大学専任講師）
- 【日時】 9月18日（日）予定
- 【会場】 サッポロファクトリー アトリウム

### ②CROSS TALK「島本 和彦×すがやみつる」(仮)

メディア芸術祭マンガ部門の受賞者であり札幌出身のマンガ家・島本和彦氏が登場。マンガ家でメディア芸術祭の審査委員でもあるすがやみつる氏が，マンガ家ならではの視点で島本和彦氏の自伝的作品「アオイホノオ」の制作秘話を掘り下げます。

- 【出演】 島本 和彦（マンガ家）  
すがやみつる（マンガ家／京都精華大学教授）
- 【日時】 9月19日（月・祝）予定
- 【会場】 サッポロファクトリー アトリウム

### ③SIAFラボ presents' クリエーティブコーディング講座(ワークショップ)

来年8月に第2回の開催を予定している札幌国際芸術祭SIAFとの連携企画。札幌市資料館に開設された「SIAFラウンジ」と「SIAFプロジェクトルーム」の2つのスペースを活動拠点として活動する「SIAFラボ」のメンバーが，定例で行っている小学生を対象にしたプログラミングを用いて創造的な活動を行うためのクリエーティブ・コーディングのワークショップを実施します。

- 【講師】 小町谷 圭，船戸 大輔，金井 謙一，石田 勝也（SIAFラボメンバー）
- 【日時】 9月22日（木・祝）予定
- 【会場】 札幌市資料館2階 SIAFプロジェクトルーム（札幌市中央区大通西13丁目）
- 【定員】 小学生20名程度（事前応募制）

## 札幌展全出品リスト(予定)

ジャンル	作品名	アーティスト	文化庁メディア芸術祭受賞歴
展示	KAGE table	ブラブラックス	第1回デジタルアート部門大賞
展示	ロボットAIBO	大槻 正/空山 基	第3回デジタルアート部門大賞
展示	シーマン～禁断のベット～	斎藤 由多加	第3回デジタルアート部門優秀賞
映像	Cycloid-E	Cod.Ast. Mtl. h. i. DÉCOOSTERD / André DÉCOOSTERD	第14回アート部門大賞
展示	Que voz feio (醜い声)	山本 良浩	第15回アート部門大賞
映像	Pendulum Choir	Cod.Ast. Mtl. h. i. DÉCOOSTERD / André DÉCOOSTERD	第16回アート部門大賞
映像	Species series	YANG Wonbin	第16回アート部門新人賞
映像	新しい生物	ユーフラテス	第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品
展示	ゲームキョウカイ	藤木 淳	平成24年度メディア芸術クリエイター育成支援事業 採択企画
映像	Nyloid	Cod.Ast. Mtl. h. i. DÉCOOSTERD / André DÉCOOSTERD	第18回アート部門優秀賞
展示	(不) 可能な子供、01: 朝子とモリガの場合	長谷川 愛	第19回アート部門優秀賞
展示・映像	感情縫身装身具	片貝 葉月	第19回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品
展示	初音ミク 等身大フィギュア	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	
展示	piaproの壁	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	
展示	リボンの騎士	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	
短編アニメーション	WHILE THE CROW WEEPS —カラスの涙—	錦柄 真希子 / 松村 康平	第17回アニメーション部門新人賞
短編アニメーション	The Sense of touch	Jean-Charles MBOTTI MALOLO	第18回アニメーション部門優秀賞
短編アニメーション	Rhizome	Boris LABBÉ	第19回アニメーション部門新人賞
劇場アニメーション	ゴールデンタイム	稲葉 卓也	第17回アニメーション部門大賞
劇場アニメーション	ジョパンニの島	西久保 瑞穂	第18回アニメーション部門優秀賞
劇場アニメーション	たまこラブストーリー	山田 尚子	第18回アニメーション部門新人賞
マンガライブラリー	王道の狗	安彦 良和 ※北海道出身	第4回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	ブラックジャックによろしく	佐藤 秀峰 ※北海道出身	第6回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	失踪日記	吾妻 ひでお ※北海道出身	第9回マンガ部門大賞
マンガライブラリー	PLUTO	作: 手塚 治虫 / 浦沢 直樹	第9回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	宗教教授異考録	星野 之宣 ※北海道出身	第12回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	イムリ	三宅 乱文 ※北海道出身	第13回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	百姓貴族	荒川 弘 ※北海道出身	第16回マンガ部門審査委員会推薦作品
マンガライブラリー	Sunny	松本 大洋	第16回マンガ部門審査委員会推薦作品
マンガライブラリー	昭和元禄落語心中	雲田 はるこ	第17回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	五色の舟	近藤 ようこ/津原 泰水	第18回マンガ部門大賞
マンガライブラリー	アオイホノオ	島本 和彦 ※北海道出身	第18回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	かくかくしかじか	東村 アキコ	第19回マンガ部門大賞
マンガライブラリー	機械仕掛けの愛	業田 良家	第19回マンガ部門優秀賞
マンガライブラリー	ゴールデンカムイ	野田 サトル ※北海道出身	